

# 小樽市観光基本計画策定委員会 第四回委員会議事録

日時 平成 28 年 8 月 29 日(木) 14:00～16:00

場所 小樽市役所別館 3 階 第 2 委員会室

## 次第

(1)開会 李委員長より開会の挨拶があった。

## (2)小樽観光の方向性と主要施策について

●事務局より、これまでの議論から導き出された小樽観光の方向性案について説明があった。

○「小樽観光の方向性」(配布資料 1)

○「小樽観光の方向性と主要施策／議論ポイント」(配布資料 2)

●提示した方向性案が妥当かどうか、また、方向性から取り組むべき主要施策はどのようなものがあるか、各委員から意見を伺った。主な意見は以下の通り。

○日本遺産認定に向けた活動を推進する。

○クルーズ船など第三号埠頭の整備が必要。

○コンテナカフェのような港の活用。

○北運河地区への誘客促進を図る。

○新施設である芸術村を軸にした誘客を検討する。

○歴史的建造物は小樽の象徴でもあり、もっとその価値をアピールすべきだ。

○小樽の山の魅力発掘と発信。

○現存する著名な建築物、防波堤の価値、モノを運ぶ鉄道など、小樽にしかない背景の価値を訴求する。

○地域内の交通をからめながら、“まちなか”をつなげる仕組みづくり。

○映画ロケ地などに積極的にアプローチする。

○「もう一泊したくなるようなマチ」を目指す。

○いろいろなものを組み合わせて、だれでも歩けるマチづくり。

○芸術・文化をもっと知ってもらえる体験型の企画に取り組む。

○歴史文化のストーリーの奥深さを伝える。

○修学旅行の体験メニューの開発を進める。

○飛行機の機内での PR など、キャンペーン活動で来樽意欲を高める。

○安心安全の食の価値づくりや、観光としての食の強みをアピールする。

- 泊まってもらふことが前提とし、ナイトバスなどで近隣と結ぶ方策も。
- 多言語表示、スマホ対応などの環境整備。

- 富裕層を意識した、経済波及効果の高い観光を考える。
- 通過型ではない小樽の価値を新しい施設の魅力とともに訴求する。
- 多様なニーズ(海外と国内)に対応する取り組みを明確にして経済効果を高める。
- 拠点化して小樽を起点にした観光ルート、コンテンツを開発。

- 小中学校などの教育に地域の観光を取り入れる。
- 外国人への対応の向上を目指す。
- 外国人に小樽の歴史をわかりやすく紹介する方法を模索する。
- 建築物の保守意識を高めて景観を守る取り組み。
- 高速道路余市延伸や、2030年新幹線が札幌という状況を前に、小樽を観光の目的地に選んでもらうためには何をすべきか、外からの目線で市民が話し合う機会を設ける。生き残りをかけた視点で、人づくりを柱にしたい。

●意見交換に続き、3名のアドバイザーの方から助言をいただいた。施策にあたっては誰が主体なのか、訴求するターゲットは誰かを明確にすることや、豊富な観光コンテンツを整理して組み合わせを考えること、いかにお金をおとしてくれるか経済効果について触れることが大切であると指摘を受けた。また、ガイドや通訳などの人を通じた魅力発信や、第三号埠頭の観光拠点化、宿泊施設の整備などについても言及があった。

### (3) 閉会

委員長より、次回の日程を確認し閉会した。

<次回委員会 9月21日(水) 14:00～／小樽市民会館1号館>